釧路市立北中学校「学校だより」

# 北　魂

令和８年（2026年）１月13日発行　VOL 41

## 第３の居場所

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

本日は冬季休業最終日です。職員室の中では、教職員が朝から動き回っています。明日から始まる３学期に向けて、授業に向けた教材の作成や情報の収集、学級開きに向けた掲示物の準備や教室の環境整備など、時間が経過するにつれて慌ただしさが増していくように感じます。しかし、教職員一人一人の表情や動きを見ていると、「嬉しそう」「楽しそう」「ワクワク」など、前向きな気持ちが伝わってくる言葉が思い浮かびます。新しい学期を迎えるときの教職員の性かもしれませんが、生徒たちに会うことが楽しみなんだなと実感します。冬季休業期間中は、夏季休業期間中にあった自然災害による避難所開設などもなく、また、生徒についての深刻な事件・事故の報告もありませんでした。後者については、保護者や地域の皆さんが、休業期間中の生徒の生活を見守ってくれたお陰だと思います。３学期は１年間をまとめるとともに、次年度へ向けて準備をしていく期間です。生徒たちが今年度の自分の成長を振り返り、次年度に向けて何をしていくのか、そんなことが明確になる３学期にしていきたいと考えています。引き続き、学校づくりに対する保護者や地域の皆さんの御理解御協力をよろしくお願いします。

さて、冬季休業期間中に、12月の面談時に２学年の生徒たちが作成してくれたシートをながめていました。そこには、「北中学校でどんな中学生になりたいか」、「そのために身に付けたい資質・能力」について、それぞれの生徒の考えや思いが記されています。それらをキーワードごとに整理し、経済協力開発機構（OECD）が示している2030年代、2040年代を生きていくために必要される資質・能力と比べてみました。すると、生徒たちが導き出した資質・能力の多くがOECDが示した資質・能力と合致していることが分かりました。２学年の生徒たちが未来のことを見据えて、しっかりと生活していこう、そんな姿勢で日常生活を送っていることが垣間見えた気がしました。そして、生徒たちが挙げた資質・能力のうちで特に多かったのが、「人を支えられる」「誰に対しても優しい」「誰とでも交流できる」など、他者を思いやったり、他者を尊重する内容でした。

現在、本校には187名の生徒が在籍しています。様々な個性、特性をもつ生徒たちが一生懸命に学校生活を送っています。まさに「多様性」です。しかし、中には、「しんどさ」を抱えながら必死になって日々の生活を送っている生徒もいると思います。そんな生徒たちの「居場所」をつくること、このことも３学期は大事にしていきたいと思います。自分が抱えている「しんどさ」や「困り感」、「悩み事」について、「大変なんだよ」、「困ってるんだ」、「しんどくてたまらない」、「助けてよ」と言ってもかまわないこと、そして、それを受け止めてくれる誰かがいること、そんな家庭や学校（学校の中かもしれないけれど）でもない、「第３の居場所」をつくっていけたらと思います。そして、次代の北中学校をつくっていくリーダーである２学年の生徒たちが、既に「第３の居場所」を創ろうとしていること、とても心強く感じます。